



(題字・大槻文平初代会長)
(隔月1回 10日発行)

発行所
(公財)昭和聖徳記念財団

〒190-0012
東京都立川市曙町2-34-13
電話 (042)522-2451
FAX (042)522-7747

http://www.f-showa.or.jp

秋篠宮殿下 立皇嗣の礼



「立皇嗣宣明の儀」を終え、皇居を出られる秋篠宮皇
嗣殿下―8日午前11時47分、皇居・宮殿「南車寄」

「責務 深く思い務め」

秋篠宮文仁親王殿下が、べられました。続いて菅
皇位継承順位一位になら
義偉首相が「寿詞」を朗
読、儀式は終了。儀式に
れたことを内外に宣言す
る「立皇嗣の礼」が十一
は、九人の皇族方と菅首
月八日、皇居・宮殿で国
相ら三権の長や外国の大
使代表など四十六人もマ
事行為として執り行われ
ました。宮殿・松の間で
スク姿で参列しました。
午前十一時から行われた
中心儀式「立皇嗣宣明の
儀」は、天皇陛下が「宣
親授」のあと、壺切御剣
明」を読み上げ、秋篠宮
を携えた秋篠宮殿下が馬
車で宮中三殿に向かい、
文仁親王殿下が皇嗣であ
ることを宣言しました。
皇嗣となったことを、こ
告。午後四時半からの

歴代の皇太子が着用し
てきた装束に身を包んだ
秋篠宮殿下が、紀子妃殿
下とともに天皇陛下の前
に進み「皇嗣としての責
務に深く思いを致し、務
めを果たしてまいりたく
存じます」と決意を述

秋の 皇居

点 描

「朝見の儀」で天皇皇后
両陛下にお礼
を述べられ、
国事行為とし
てのお代替わ
りに伴う行事
は終了しまし
た。

コロナ禍の影響が続く
中、九月十五日、初秋の皇
居では天皇陛下が上皇陛
下から引き継がれたお稲
刈りです。

陛下、田んぼでお稲刈り 宮中祭祀次々と23日には新嘗祭

皇居内の田んぼでお稲刈
りをされる天皇陛下―9
月15日(宮内庁提供)



陛下は実つ
た稲を一株ず
つ鎌で手際良
く刈り取ら
れ、収穫後に
「稲作への思いをより深
めることができました」
とご感想。

豪雨被害やコロナ禍の
中で農業に従事する人た
ちの思いを寄せ、「各地
で収穫が無事に行われる
ことを願っております」
とご感想。

「秋分の日」の九月一
相ら閣僚も参列しまし
祭と続きます。

第三十六回国際生物学
賞が、理化学研究所環境
資源科学研究所・特
別顧問の篠崎一雄博士
(71)に贈られること
になりました。今回の授賞
対象分野は「環境応答の
生物学」です。

第36回国際生物学賞

篠崎一雄博士に

賞金一千万円が贈られる
ほか、皇嗣殿下から賜品
応答の生物学」に最も
があります。



受賞した篠崎博士(左)。賞牌(右)には昭和天皇が
相模湾で発見・発表されたヒドロ虫類の新属
新種セルカゴメウミヒドラ(右)が吉田左源二
氏によりデザインされています



気候変動の食糧危機に貢献へ

物科学研究センター、現
在の環境資源科学研
究センターのセンター
長を務める現在、同
タリ特別顧問。同
能開発研究グループ
レクターを兼務。

物科学研究センター、現
在の環境資源科学研
究センターのセンター
長を務める現在、同
タリ特別顧問。同
能開発研究グループ
レクターを兼務。

「秋分の日」の九月一
相ら閣僚も参列しまし
祭と続きます。

昭和聖徳記念財団は、
学術研究助成に応募さ
れる方を募集しています。
この学術研究助成は、
平成三年度(今回で三十
回目)から、生物学に
する世界的研究者
としての昭和天皇
の研究分野(系統
分類学)及びそれ
野の研究を奨励
し、学術研究の推
進・発展に寄与す
ることを目的に、
一年間に一件につ
き五十万円を上限
に助成していま
す。

第30回 学術研究助成へ応募を

助成を希望の
方は、昭和聖徳記
念財団のホームペ
ージ(URLは題
字下)で学術研
究助成申請書をコ
ピー、
「学術研究」係に十二
月十日(木)必着で
込みを。送り先、
わせた先など詳細
ムページで。

昭和天皇御製

外国のをさをむかへついかひを
水にながして語らはむとて

昭和三十三年

ひとくメモ

昭和33年12月1
日、第二次大戦後7
人目の国賓として、
フィリピン国のガ
ルシア大統領を夫
人とともに迎えて、
国際親善を深めら
れた。

香淳皇后御歌

月かげも淡くのこりてあさみどり
すがすがしくも明けそむる空

昭和二十六年



この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。